

## 第5回地域型住宅「信濃町の家」構築検討委員会 議事録

日 時：平成29年3月13日（月）18：00から

場 所：信濃町役場 第3会議室

出席者：検討委員7名（3名欠席）、事務局7名、桂川アドバイザー、(株)エイブルデザイン3名

### 1 開 会

(事務局)

定刻となりましたので、第5回地域型住宅「信濃町の家」構築検討委員会を始めさせていただきます。2月7日に東白川村へ伺いフォレストスタイルシステムに関する協定締結させていただきました。桂川さんにおかれましてはその節はありがとうございました。また、2月22日には先進地視察ということで岩手県紫波町に参加いただきましてありがとうございます。本日はWebサイト構築業者である(株)エイブルデザインも参加いただいております。それでは、2のあいさつと致しまして、鹿島委員長よりお願いします。

### 2 あいさつ

(鹿島委員長)

みなさんお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

いよいよ検討委員会も大詰めでありまして、来年度のスタートを目指しておりますのでみなさんのご協力をお願いいたします。

先日は岩手県紫波町へ視察に行ったわけですが、非常に興味深い話も伺えましたのでその内容を生かせるようにやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

### 3 議事録の確認

(事務局より)

資料 第4回地域型住宅「信濃町の家」構築検討委員会議事録より説明。

### 4 議題（議長は鹿島委員長）

(1) 「信濃町の家」の基準について

- ・前回の検討委員会のふりかえり
- ・仮想施主へのヒアリングのまとめ

(事務局SCOP)

資料1・2により説明。

- ・「信濃町の家」の基準（案）

(事務局)

資料3により説明。

- ・2020年の省エネ基準義務化のポイント  
(小林憲一副委員長より)  
資料4により説明。

<休憩>

質疑応答

(M委員)

省エネ基準については、建築屋として考えており今後対応していかなければならないところで。今考えているのは木製建具を作ろうとしていますが、町内の建具屋でもできるのかどうか。信濃町の家として、町産材の端材を活用した建具を町内で生産することで雇用が生まれ、新たな職種が増えると思います。

(K委員)

建具についても、J I Sの認定を受けないと仕様が認められなくなり計算上使えなくなります。断熱材もJ I Sが取れているのは北海道しか無いのが現状です。

(E委員)

2020年の省エネ基準よりも高い基準で設定されていますが、他のハウスメーカーも同じような基準であり、今の条件では競争するに厳しいと感じますがいかがでしょうか。

(K委員)

岩手県紫波町のオガールタウン分譲地にあるモデルハウスの仕様については、信濃町と同じ3地域であり外皮平均熱貫流率基準が $0.56\text{W}/\text{m}^2\cdot\text{k}$ となっておりますが、そのモデルハウスでは、基準の半分の値で施工されている高基準となっております。

その高基準を町内業者が施工できるのか。また、断熱材費のコスト増加が見込まれます。基準は高い方が良いとは思いますが、現状は2020年基準を満たさない施工をしている町内業者もありますので、まずは義務化の基準を超え、その上の基準を目指す必要があると思います。

(C委員)

木を使う仕組みがメインであり、省エネ基準は付加的なものであると思います。省エネで勝負するのであれば他のハウスメーカー基準と信濃町の基準では勝負にならないのは当然だと思います。省エネ基準を入れた理由は、信濃町は長野市から見ると寒冷地でありイメージでは寒いイコール暖かい家を想像すると思います。省エネ基準は義務化基準ではなく10%上乘せした基準を設定しております。

(E 委員)

施主が信濃町の家在省エネや断熱性能の基準を求めている場合には、基準を下げてもらうことは可能なのか。

(K 委員)

フォレストスタイル「信濃町の家」のサイトを訪れる客はそのような性能を求めているとは思いません。

(T 委員)

個人的には高い断熱性能は良いとは思いますが、木を使って森を循環させることがお客には響くと思います。

(C 委員)

地産地消という言葉がありますが、東白川村に視察に行った際に地元にある木を切り出して製材する工程が目に見える仕組みとなっております。

ある住宅メーカーの家は建材、サッシ、風呂など殆どが海外で製造し輸入しております。ローコストで高品質の物で家造りをしてしておりますが、目に見える地元の木を伐って家造りをするのは大手ハウスメーカーではできないが、地元工務店ではそれが出来るのが売りになると感じています。

(T 委員)

気密性の問題はどのように考えますか。

(K 委員)

気密性については、測定が難しい部分があるので「信濃町の家」の仕組みの中に断熱の施工講習などを入れて、その後に気密性も導入して行けたらと考えています。

(A 委員)

2020年省エネ基準義務化の話をお聞きして、冬期室内温度と朝の寝室温度が全国でワースト1であることがわかったので、それが改善されれば強いアピールポイントになると思います。

全室どこに行っても同じ温度ということが、数値で証明できると良いのではないかと感じました。

(桂川アドバイザー)

どこの工務店にも共通するテーマなので、基準の仕様を信濃町の強みに変えた場合を考えると、当村の場合には、10人に1名位の割合で断熱などの勉強をされているお客がいらっしゃいますが、殆どのお客はその仕様に関しては深く要求せず、デザインや住み方、子供の空間などをイメージした家造りを考えています。

省エネに関する資料を全てWebで発信しても、お客がそこまで吸収してくれることを期待するのではなくて、サラッとしておいた方が良いと感じました。

また、ランニングコストを数値化したものを表記することや、信濃町の家では省エネに関する講義を2時間受けられるなど、他には無い部分を出すことで強みになりお客さんにとってお得になるのではないか。併せて薪ストーブを使うことでCO2を削減したエネルギー消費の森林循環ストーリーの仕組みが信濃町の個性なのかと思います。

## (2) その他

(事務局)

- ・モデル住宅建築について（資料により説明）
- ・次回検討委員会  
正副委員長と相談し、改めて通知させていただきます。

## 5 閉会

20時35分終了